

7 紙

平成 25 年度の紙、板紙の生産量は約 2,667 万トンであり、そのほとんどが国内で消費されています(図-IV-14)。

家庭から発生する古紙は、集団回収・行政回収などを通じて集められます。オフィスなどの事業所から出る古紙は回収業者を通じて、また印刷/製本工場などの大規模発生源からの産業古紙は坪上業者や専門買出人等によって回収されます。

平成 25 年度の古紙回収量は約 2,196 万トン、古紙利用量は約 1,726 万トンとなっています(図-IV-15)。平成 25 年度は古紙回収率は 79.5%、古紙利用率(製紙原材料全体に占める古紙の割合)は 63.8%となっており高い水準を維持しています(図-IV-16)。なお、資源有効利用促進法に基づく省令において、紙製造業に属する事業を行う者が目標とする古紙利用率は、平成 27 年度までに 64%となっています。

この目標を達成し、古紙リサイクルをいっそう推進するためには、板紙分野に比べて古紙利用率が低い紙分野での古紙利用を進めることが大切です。そのため、製紙メーカーにおいては古紙利用技術の向上、消費者においては古紙利用製品への理解を深めるとともに積極的に利用し、また、特に今後求められるのは、古紙の排出時に分別を徹底することです。

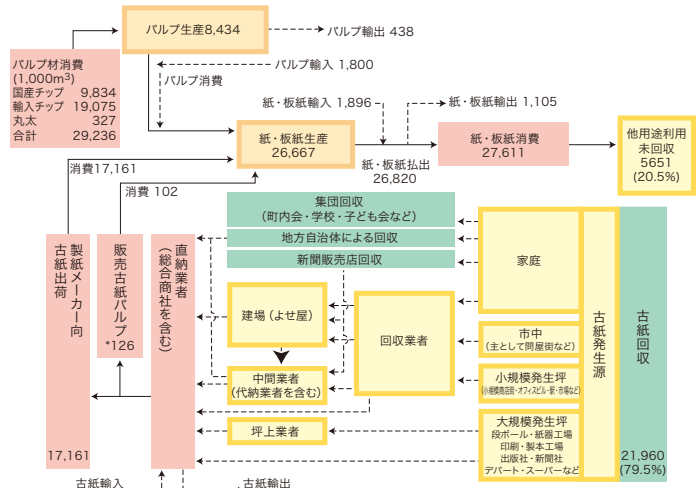
また、平成 24 年度の容器包装リサイクル法に基づく市町村による紙製容器包装の分別収集量は 88,698 ト

ン、再商品化量は 83,171 トンとなっています。

回収された古紙のうち、段ボール古紙、新聞古紙、雑誌古紙で古紙全体の約 83% を占めています。また、近年古紙の輸出が急拡大し、平成 25 年度には 471 万トンもの古紙が輸出されています。

古紙の製紙以外への他用途利用分野ではパルプモールドなどの緩衝材、建築用断熱材、固形燃料等に古紙全体の 1%強が使用されています。

図-IV-15 古紙の発生・流通経路(平成 25 年度・単位:千トン、%)



注) *については古紙パルプ用に使用された古紙を80%として換算した推定値。
資料: 紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報、日本貿易月表

図-IV-14 紙の品種別生産比率(平成 25 年度)

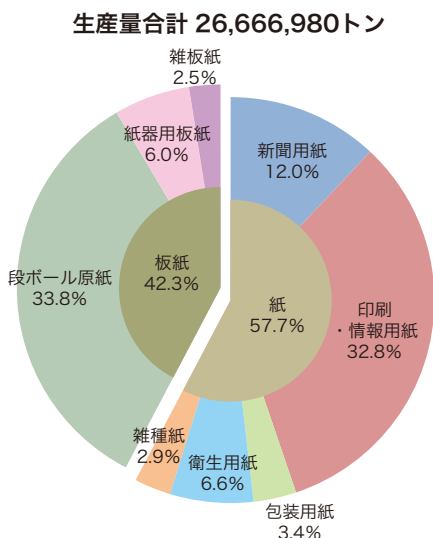


図-IV-16 古紙回収率・利用率の推移

